

歯科理工学実習Ⅱ／保存修復学実習Ⅰ

責任者名：米山 隆之(歯科理工学 教授)／宮崎 真至(歯科保存学Ⅰ 教授)

学期：前期

対象学年：3年

授業形式等：実習

◆担当教員

米山 隆之(歯科理工学 教授)
小泉 寛恭(歯科理工学 准教授)
深瀬 康公(歯科理工学 専任講師)
掛谷 昌宏(歯科理工学 専任講師)
赤司 幸勇(歯科理工学 兼任講師)
飯島 清人(歯科理工学 兼任講師)
岩崎 英理子(歯科理工学 兼任講師)
岩崎 優希子(歯科理工学 兼任講師)
大木 裕玄(歯科理工学 兼任講師)
小嶋 太巳(歯科理工学 兼任講師)
小滝 友一(歯科理工学 兼任講師)
小堀 雅教(歯科理工学 兼任講師)
榊原 茂弘(歯科理工学 兼任講師)
笹尾 道昭(歯科理工学 兼任講師)
塩田 陽二(歯科理工学 兼任講師)
竹井 満久(歯科理工学 兼任講師)
中川 吉章(歯科理工学 兼任講師)
中島 義雄(歯科理工学 兼任講師)
中村 均志(歯科理工学 兼任講師)
平田 修二(歯科理工学 兼任講師)
松平 修一(歯科理工学 兼任講師)
三野 元崇(歯科理工学 兼任講師)
宮崎 紀代美(歯科理工学 兼任講師)
宮永 光一(歯科理工学 兼任講師)
八木原 建司(歯科理工学 兼任講師)
由井 眞司(歯科理工学 兼任講師)
宮崎 真至(歯科保存学Ⅰ 教授)
陸田 明智(歯科保存学Ⅰ 准教授)
黒川 弘康(歯科保存学Ⅰ 准教授)
高見澤 俊樹(歯科保存学Ⅰ 准教授)
石井 亮(歯科保存学Ⅰ 助教)
小森谷 康司(歯科保存学Ⅰ 助教)
柴崎 翔(歯科保存学Ⅰ 助教)
新井 智(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
関東 英雄(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)

鈴木 治仁(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
宮 直利(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
青島 裕(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
鈴木 敏裕(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
青木 文良(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
秋山 佳英(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
天野 晋(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
真下 裕道(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
金丸 壽良(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
五十嵐 薫(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
若松 英輝(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
今井 元(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
後藤 誠之(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
市石 芳博(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
岩崎 圭祐(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
佐藤 幹武(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
福本 敬一(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
吉野 弘三(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
本浄 学(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
吉田 武史(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
山口 佳奈子(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
佐藤 光(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
渡邊 珠代(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
島村 穰(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
本浄 奈津(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
坪田 圭司(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
川本 諒(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
鈴木 総史(歯科保存学Ⅰ 兼任講師)
升谷 滋行(歯科保存学Ⅰ・医療人間科学 兼任講師)

◆一般目標 (GIO)

歯科理工学実習Ⅱ：

歯科医療や歯科技工を行うために用いられる材料（高分子材料，セラミックス，金属材料，複合材料）と器械・器具の固有の性質，特性及び用途を理解する。歯科材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法（成形・加工・熱処理を含む）を理解する。

保存修復学実習Ⅰ：

診療参加型臨床実習で歯科治療を実践するために，シミュレーション実習（模型実習）を通して保存修復領域の基本的臨床技能を修得する。

◆到達目標 (SBOs)

歯科理工学実習Ⅱ：

①診療用器械・器具の構造と特性を説明できる。

- ②成形修復・予防填塞用材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法を説明できる。
- ③歯冠修復・義歯用材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法を説明できる。
- ④接着・合着・仮着用材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法を説明できる。

保存修復学実習 I：

- ①歯科用器具を安全に操作できる。
- ②清潔に配慮した操作ができる。
- ③医療安全対策を実践できる。
- ④標準予防策を実践できる。
- ⑤歯科治療に必要な器材の準備，片付けができる。
- ⑥前準備処置（ラバーダム防湿，歯肉排除，隔壁，歯間分離）ができる。
- ⑦う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置（コンポジットレジン修復，ガラスアイオノマーセメント修復，補修修復）を実施できる。

◆評価方法

歯科理工学実習 II / 保存修復学実習 I の成績は，歯科理工学実習 II と歯科保存学実習 I の実習評価点数の平均を全体の評価とする。

歯科理工学実習 II：

実習後のレポート（30%）および平常試験（70%）で評価する。

レポートおよび平常試験の結果に基づき，平常試験の解説によって総合的にフィードバックを行う。

歯科保存学実習 I：

実習成果物（20%）と実習に取り組む態度（30%），技能試験（50%）で評価する。

実習成果物は完成までの各ステップを評価シートを用いて評価するとともに，フィードバック（解説）を対面で行う。各ステップでの振り返りから，保存修復治療に必要な基本的臨床技能を習熟すること。

実習に取り組む態度はルーブリックを用いて評価する。振り返りで自身の足りない点を自覚し，見直すこと。

技能試験は一連の手技を評価する。試験終了後にフィードバック（解説）とともに口頭試問を対面で行う。理解不足であった内容を自覚し，該当する実習，講義の内容を振り返ることで，保存修復治療を実践するために必要な基本的知識を身につけること。

◆オフィス・アワー

担当教員	対応時間・場所など	メールアドレス・連絡先	備考
米山 隆之	火曜日 17:00~18:00 本館5階歯科理工学講座教授室	yoneyama.takayuki@nihon-u.ac.jp	
小泉 寛恭	火曜日 17:00~18:00 本館5階歯科理工学講座研究室	koizumi.hiroyasu@nihon-u.ac.jp	
深瀬 康公	火曜日 17:00~18:00 本館5階歯科理工学講座研究室	fukase.yasumasa@nihon-u.ac.jp	

掛谷 昌宏	火曜日 17:00~18:00 本館5階歯科理工学講座研究室	kaketani.masahiro@nihon-u.ac.jp	
宮崎 真至	水曜日 17:00~18:00 本館6階 歯科保存学第I講座教授室	miyazaki.masashi@nihon-u.ac.jp	
石井 亮	水曜日 17:00~18:00 本館6階 歯科保存学第I講座医局	ishii.ryou@nihon-u.ac.jp	

◆授業の方法

歯科理工学実習Ⅱ：

5/28（土曜日）に平常試験（筆記試験）及び解説を行い、5/25は休講とする。実習内容の総括講義を5/24の歯科理工学Ⅱの授業時間に行う。

教科書2の内容を主とした実習を行う。必要に応じてプリントでの補完を行う。

実習後のレポートおよび平常試験によって知識の整理、理解度の確認を行うとともに、平常試験の解説によってフィードバックを行う。

【実務経験】米山隆之：歯科医師としての臨床実務経験を有し、本教科で学ぶ知識や理論がいかに臨床で生かされるかという側面についても学ぶ場を提供したいと考えている。（歯科理工学）

【実務経験】小泉寛恭：歯科医師としての臨床実務を行っており、本教科で学ぶ知識や理論がいかに臨床で生かされるかという側面について、重点的に学ぶ場を提供したいと考えている。（歯科補綴学）

【実務経験】深瀬康公：歯科医師としての臨床実務経験を有し、本教科で学ぶ知識や理論がいかに臨床で生かされるかという側面についても学ぶ場を提供したいと考えている。（歯科理工学）

保存修復学実習Ⅰ：

学生をA班、B班の2班に分けて、対面で実習を行う。

A班は学年番号（4桁）が奇数の学生グループであり、1～3時限目で実習を行う。

B班は学年番号（4桁）が偶数の学生グループであり、5～7時限目で実習を行う。

実習を始めるにあたり、当日の内容についてのデモンストレーションを行った後、各班のインストラクターが補足説明する。8人程度の学生に対して約3人のインストラクターが配属され、指導にあたる。模擬齶蝕付き人工歯を用いて、高頻度歯科治療を想定したシミュレーション実習を行う。

【実務経験】宮崎真至：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院保存修復科での経験および歯科保存学第I講座の教授として研究等で得られた最新の知見を踏まえながら、保存修復領域の基本的臨床技能およびこれを支える知識を修得する場を提供したいと考えている。

【実務経験】石井 亮：現在、在職している日本大学歯学部附属歯科病院保存修復科での経験を踏まえながら、共用試験OSCEおよび診療参加型臨床実習で必要な保存修復領域の基本的臨床技能を修得する場を提供したいと考えている。

◆アクティブ・ラーニング

実習

◆教材（教科書、参考図書、プリント等）

種別	図書名	著者名	出版社名	発行年
教科書 1（歯科理工）	スタンダード歯科理工学 [第7版]	中嶋 裕, 宮崎隆, 米山隆之	学建書院	2019
教科書 2（歯科理工）	歯科理工学実習Ⅱ 実習指針	日本大学歯学部歯科理工学講座編	蓼科印刷	2022
教科書 1（保存修復）	保存修復学（第7版）	宮崎真至, 千田彰, 斎藤隆史, 向井義晴, 林美加子	医歯薬出版	2019
教科書 2（保存修復）	保存修復学実習概要 2022	日本大学歯学部保存学教室修復学講座編	新燈印刷	2022

◆DP・CP

歯科理工学実習Ⅱ, 保存修復学実習Ⅰ

DP3

コンピテンス：論理的・批判的思考力

コンピテンシー：多岐にわたる知識や情報を基に、論理的な思考や批判的な思考ができる。

DP4

コンピテンス：問題発見・解決力

コンピテンシー：自ら問題を発見し、その解決に必要な基本的歯科医学・医療の知識とスキルを修得できる。

CP3

幅広い教養と歯科医療に必要な体系的な知識を基に、論理的・批判的思考力と総合的な判断能力を育成する。

CP4

歯科医学の基礎知識を体系的に修得し、臨床的な視点で問題を解決する力を養成する。

◆準備学習(予習・復習)

歯科理工学実習Ⅱ：

必ず事前に教科書2を読んで、実習内容を理解しておくこと。実習後に学修内容を復習し、課題によってレポートにまとめること。

保存修復学実習Ⅰ：

Google カレンダーに実習手技に関する動画を添付するので事前に視聴すること。

事前に実習書、教科書および保存修復学Ⅰの講義ノート、配布資料を読んで、実習内容および学修到達目標を把握しておくこと。

保存修復学Ⅰの復習は実習に必要な知識の整理に繋がるため、必ず実施すること。

手技に関する質問は実習中に随時受け付けるが、オフィスアワーも有効活用すること。

◆準備学習時間

歯科理工学実習Ⅱ：

各々実習時間の半分程度の時間を充てて予習と復習を行うこと。

保存修復学実習Ⅰ：

保存修復学Ⅰの復習および実習内容の確認に要する時間として、3コマの実習時間に対して1時間程度の準備時間を確保すること。

◆全学年を通しての関連教科

物理化学（1年前期）

有機化学（1年前期）

歯科理工学Ⅰ（2年後期）

歯科理工学実習Ⅰ（2年後期）

歯科理工学Ⅱ（3年前期）

保存修復学Ⅰ（3年前期）

保存修復学実習Ⅰ（3年前期）

ベーシックカリオロジー（3年前期）

保存修復学Ⅱ（3年後期）

保存修復学実習Ⅱ（3年後期）

クリニカルカリオロジー（3年後期）

歯冠補綴学（3年後期）

歯冠補綴学実習（3年後期）

総義歯補綴学Ⅰ（4年前期）

総義歯補綴学Ⅱ（4年後期）

無歯顎患者への総義歯製作実習（4年後期）

部分床義歯補綴学Ⅰ（4年前期）

部分床義歯補綴学Ⅱ（4年後期）

部分床義歯の模型実習Ⅰ（4年前期）

部分床義歯の模型実習Ⅱ（4年後期）

架橋義歯補綴学（4年前期）

固定性義歯補綴学（4年後期）

架橋義歯補綴学実習（4年前期）

臨床推論の構築（5年後期）

臨床実習（5年通年）

臨床実習アドバンスト（6年前期）

◆予定表

回	クラス	月日	時限	学習項目	学修到達目標	担当	コアカリキュラム
1 ～ 3		4.6	6 ～ 8	【対面】 1. 切削器械・工具 1)実習の概要 2)エアタービンの	・回転切削器械の原理と構造を知り、使用法を習得する。 ・切削工具の材質、形状等を観察・理解する。 ・人工歯（レジン歯、硬質レジン	歯科理工学 小泉以外	D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途

				<p>観察</p> <p>3)マイクロモータの観察</p> <p>4)切削工具の観察</p> <p>5)人工歯の切削 (教1) pp.335-368 (教2) 該当ページ</p>	<p>歯, 陶歯) を種々の工具および器械の組合せで切削し, 切削効率の良否を観察するとともに, 切削器械の操作方法に習熟する。</p>		
4 ～ 6	4.13	6 ～ 8	<p>【対面】</p> <p>2. 合着用セメント</p> <p>1)実習の概要</p> <p>2)練和方法および練和泥の味覚刺激の変化</p> <p>3)硬化時間の測定 (教1) pp.253-271 (教2) 該当ページ</p>	<p>・合着用セメントの用途, 種類, 組成および使用法を理解する。</p> <p>・ガラスアイオノマーセメント, レジンセメント, ポリカルボキシレートセメント, リン酸亜鉛セメント, 酸化亜鉛ユージオールセメントの練和に用いる器具について知り, 練和方法を習得する。</p> <p>・練和直後と30分後に練和泥を舐め, その味覚からpHおよび刺激の変化を理解する。</p> <p>・ガラスアイオノマーセメントの硬化開始時間および硬化終了時間を測定し, それぞれの時間の臨床的意義について考察する。</p>	歯科理工学	D-2 歯科材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操作方法	
7 ～ 9	4.20	6 ～ 8	<p>【対面】</p> <p>3. 精密鑄造 (1)</p> <p>1)実習の概要</p> <p>2)ワックスパターンの作製</p> <p>3)ワックスパターンの埋没 (教1) pp.157-164, 195-221 (教2) 該当ページ</p>	<p>・ワックスパターンの作製から埋没までの工程で, インレーワックスの取扱い上の注意, スプルー線の付着位置, 湯だまりの大きさおよび付着位置, リングライナーの内張りなどの理論とその操作を理解する。</p> <p>・埋没材による鑄造収縮の補償について, 使用金属と埋没材との関係を考察する。</p>	歯科理工学	D-2 歯科材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操作方法	
10 ～ 12	4.27	6 ～ 8	<p>【対面】</p> <p>3. 精密鑄造 (2)</p> <p>4)ワックスパター</p>	<p>・ワックスパターンの焼却から鑄造体の処理までの工程で, 鑄型加熱時の注意点, 都市ガス-圧搾空気炎による合金の溶融, 遠心鑄造の原理,</p>	歯科理工学	D-2 歯科材料の種類, 用途, 成分・組成, 特性, 操	

				<p>ンの焼却と鋳型の加熱</p> <p>5)鋳造</p> <p>6)鋳造体の処理</p> <p>7)適合性の観察</p> <p>8)鋳造欠陥の観察</p> <p>9)鋳造体の研磨 (教1) pp.157-164, 195-221 (教2) 該当ページ</p>	<p>鋳造体の処理などについて理解し、それらの操作を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支台歯模型と鋳造体の適合性を観察し、適合性の良否とその原因について考察する。 ・鋳造体に認められる鋳造欠陥を観察し、その発生原因と対策を考察する。 ・研磨に用いる工具および工程を知り、研磨の目的を理解する。 		<p>作方法</p>
13 ～ 15	5.11	6 ～ 8	<p>【対面】</p> <p>4. 成形修復材料 (1)</p> <p>1)光重合型コンポジットレジン (1)実習の概要 (2)歯質との接着 (3)重合深度の測定 (4)窩洞への充填 (教1) pp.73-102 (教2) 該当ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成形修復材料の用途、種類、組成および使用法を理解する。 ・審美的修復のために行う歯の色調と近似したシェードの選択について理解する。 ・歯質とコンポジットレジンの接着について、エッチング剤およびボンディング材の作用、効果および操作方法を理解する。 ・光重合型コンポジットレジンの光の透過性と硬化(重合)深度の関連について知る。 ・コンポジットレジンで窩洞を充填し、操作方法を習得する。 	歯科理工学	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法	
16 ～ 18	5.18	6 ～ 8	<p>【対面】</p> <p>4. 成形修復材料 (2)</p> <p>2)ガラスアイオノマーセメント (1)実習の概要 (2)練和操作と硬化時間の測定 (3)感水性の観察 (4)窩洞への充填</p> <p>3)研磨表面の観察 (教1) pp.73-102 (教2) 該当ページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成形修復材料の用途、種類、組成および使用法を理解する。 ・レジン添加型(光重合型)および従来型ガラスアイオノマーセメントの操作方法および硬化時間を比較し、その違いについて理解する。 ・レジン添加型および従来型ガラスアイオノマーセメント硬化時に水分との接触による影響(感水性)を表面状態から比較観察し、適切な操作方法を検討、習得する。 ・ガラスアイオノマーセメントを窩洞に充填し、操作方法を習得する。 ・充填したコンポジットレジンの硬化物を研磨し、表面性状の観察を行い、研磨の必要性について理解す 	歯科理工学	D-2 歯科材料の種類、用途、成分・組成、特性、操作方法	

					る。		
19		5.24	2	【遠隔】 5. 実習総括 ※「歯科理工学Ⅱ」の講義時間に実施	・1～4.の実習内容に関する理解を確認するとともに知識を深める。	歯科理工学	D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 D-2 歯科材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法
		5.25	6 ～ 8	休講 ※5/24 第2時限， 5/28 第3時限，第7時限に振替			
20		5.28	3	【対面】 「歯科理工学実習Ⅱ」平常試験（筆記試験）	・「歯科理工学実習Ⅱ」1～4.の実習内容に関する理解を確認するとともに知識を深める。	歯科理工学	D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 D-2 歯科材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法
21		5.28	7	【対面】 「歯科理工学実習Ⅱ」平常試験（筆記試験） 解説	・「歯科理工学実習Ⅱ」1～4.の実習内容に関する理解を確認するとともに知識を深める。	歯科理工学	D-1 歯科医療機器（歯科材料・器械・器具）の特性と用途 D-2 歯科材料の種類，用途，成分・組成，特性，操作方法
22 ～ 24	A班	6.1	1 ～ 3	【対面】 1. 光重合型コンポジットレジン修	・I級窩洞修復の一般的手順を説明できる。 ・器材の名称と取扱いを説明でき	保存修復学 小森谷以外	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因

				復(3ステップ) 1)器材の名称と取扱い 2)ラバーダム防湿 3)齲蝕象牙質の除去 (Class I O 36) 4)歯面処理 5)充填 6)咬合調整および研磨 (教1) pp.71-76, pp.129-138, pp.141-170	る。 ・ラバーダム防湿 (白歯部1歯露出) ができる。 ・齲蝕検知液を用いた齲蝕象牙質外層の除去ができる。 ・歯面処理ができる。 ・充填ができる。 ・咬合調整および研磨ができる。		E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
22 ～ 24	B 班	6.1	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学 高見澤以外	上記と同じ
25 ～ 27	A 班	6.8	1 ～ 3	【対面】 1. 光重合型コンポジットレジン修復(3ステップ) 1)器材の名称と取扱い 2)歯肉排除 3)感染歯質の除去 (Class V La 21) 4)くさび状欠損内面削除 (La 23) 5)窩縁斜面の付与 6)歯面処理 7)充填 8)形態修正および研磨 (教1) pp.71-81, pp.129-138, pp.141-170	・V級窩洞修復の一般的手順を説明できる。 ・くさび状欠損窩洞修復の一般的手順を説明できる。 ・器材の名称と取扱いを説明できる。 ・歯肉排除ができる。 ・感染歯質の除去ができる。 ・窩縁斜面の付与ができる。 ・歯面処理ができる。 ・充填ができる。 ・形態修正および研磨ができる。	保存修復学	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
25 ～ 27	B 班	6.8	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学	上記と同じ
28	A 班	6.15	1	【対面】	・Ⅲ級窩洞修復の一般的手順を説明	保存修復学	E-3-2) 歯と歯

～ 30			～ 3	<p>1. 光重合型コンポジットレジン修復(2ステップ)</p> <p>1)器材の名称と取扱い</p> <p>2)プレウェッジ</p> <p>3)感染歯質の除去 (ClassIII MLa 12) (ClassIII MP 11)</p> <p>4)窩縁斜面の付与</p> <p>5)隔壁および歯間分離</p> <p>6)歯面処理</p> <p>7)充填および圧接</p> <p>8)咬合調整</p> <p>9)形態修正および研磨</p> <p>(教1) pp.71-76, pp.129-138, pp.141-170</p>	<p>できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器材の名称と取扱いを説明できる。 ・プレウェッジができる。 ・感染歯質の除去ができる。 ・窩縁斜面の付与ができる。 ・隔壁および歯間分離ができる。 ・歯面処理ができる。 ・歯面処理の違いを説明できる。 ・充填および圧接ができる。 ・流動性の異なるコンポジットレジンの特徴を説明できる。 ・咬合調整ができる。 ・形態修正および研磨ができる。 		<p>周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項</p>
28 ～ 30	B 班	6.15	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学 柴崎以外	上記と同じ
31 ～ 33	A 班	6.22	1 ～ 3	<p>【対面】</p> <p>1. 光重合型コンポジットレジン修復(2ステップ)</p> <p>1)器材の名称と取扱い</p> <p>2)プレウェッジ</p> <p>3)感染歯質の除去 (ClassIV LaMPI 21)</p> <p>4)窩縁斜面の付与</p> <p>5)隔壁および歯間分離</p> <p>6)歯面処理</p> <p>7)充填および圧接</p> <p>8)咬合調整</p> <p>9)形態修正および</p>	<p>・IV級窩洞修復の一般的手順を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器材の名称と取扱いを説明できる。 ・プレウェッジができる。 ・感染歯質の除去ができる。 ・窩縁斜面の付与ができる。 ・隔壁および歯間分離ができる。 ・歯面処理ができる。 ・充填および圧接ができる。 ・流動性の異なるコンポジットレジンの取り扱いができる。 ・咬合調整ができる。 ・形態修正および研磨ができる。 ・ラバーダム防湿（前歯部多数歯露出）ができる。 	保存修復学	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項

				<p>研磨 10)ラバーダム防湿 (教1) pp.71-76, pp.129-138, pp.141-170</p>			
31 ～ 33	B班	6.22	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学	上記と同じ
34 ～ 36	A班	6.29	1 ～ 3	<p>【対面】 1. 光重合型コンポジットレジン修復(1ステップ) 1)器材の名称と取扱い 2)プレウェッジ 3)感染歯質の除去(Class II OD 14) 4)隔壁および歯間分離 5)歯面処理 6)充填 7)咬合調整および研磨 (教1) pp.71-76, pp.129-138, pp.141-170</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ II級窩洞修復の一般的手順を説明できる。 ・ 器材の名称と取扱いを説明できる。 ・ プレウェッジができる。 ・ 感染歯質の除去ができる。 ・ Vリング, マトリックスおよびウェッジによる隔壁および歯間分離ができる。 ・ マトリックスバンドおよびマトリックスリテーナーによる隔壁および歯間分離ができる。 ・ 歯面処理ができる。 ・ 歯面処理の違いを説明できる。 ・ 充填ができる。 ・ 流動性の異なるコンポジットレジンの取り扱いができる。 ・ 咬合調整および研磨ができる。 	保存修復学	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
34 ～ 36	B班	6.29	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学	上記と同じ
37 ～ 39	A班	7.6	1 ～ 3	<p>【対面】 1. 光重合型コンポジットレジンによる補修修復(1ステップ) 1)器材の名称と取扱い 2)プレウェッジ 3)旧修復物表層および窩縁エナメル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補修修復の一般的手順を説明できる。 ・ 器材の名称と取扱いを説明できる。 ・ プレウェッジができる。 ・ 旧修復物表層および窩縁エナメル質の一層削除ができる。 ・ 隔壁および歯間分離ができる。 ・ シランカップリング処理ができる。 	保存修復学	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項

				質の一層削除 (ClassIV LaMPI 21) 4)隔壁および歯間 分離 5)シランカップリ ング処理 6)歯面処理 7)充填および圧接 8)研磨 9)習熟実習項目 (ClassV La 21) (ClassIII MLa 12) (教1) pp.71- 76, pp.129-138, pp.141-170	<ul style="list-style-type: none"> ・歯面処理ができる。 ・充填および圧接ができる。 ・研磨ができる。 		項
37 ～ 39	B 班	7.6	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学	上記と同じ
40 ～ 42	A 班	7.13	1 ～ 3	【対面】 2. グラスアイオ ノマーセメント修 復 1)器材の名称と取 扱い 2)歯肉排除 3)感染歯質の除去 (Class I O 46) (根面齲蝕 La 11) 4)ラバーダム防湿 5)歯面処理 6)セメント練和 7)充填および圧接 8)咬合調整 9)形態修正および 研磨 (教1) pp.71- 81, pp.129-138, pp.170-177	<ul style="list-style-type: none"> ・従来型およびレジン添加型グラス アイオノマーセメント修復の一般的 手順を説明できる。 ・器材の名称と取扱いを説明でき る。 ・セメントによる修復法の違いを説 明できる。 ・歯肉排除ができる。 ・感染歯質の除去ができる。 ・ラバーダム防湿(白歯部多数歯露 出)ができる。 ・グラスアイオノマーセメントの取 扱いおよび練和ができる。 ・充填および圧接ができる。 ・咬合調整ができる。 ・形態修正および研磨ができる。 	保存修復学	E-3-2) 歯と歯 周組織の疾患 の特徴と病因 E-3-3)-(1) う 蝕その他の歯 の硬組織疾患 の簡単な処置 F-1-2) 医療安 全・感染対策 F-3-1) 共通事 項

40 ～ 42	B 班	7.13	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学	上記と同じ
43 ～ 45	A 班	7.20	1 ～ 3	【対面】 3. 技能試験および口頭試問	・技能試験による評価とフィードバック（解説）を受けることで、実習を通して学修した内容の理解を深める。	保存修復学	E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 E-3-3)-(1) う蝕その他の歯の硬組織疾患の簡単な処置 F-1-2) 医療安全・感染対策 F-3-1) 共通事項
43 ～ 45	B 班	7.20	6 ～ 8	上記と同じ	上記と同じ	保存修復学	上記と同じ

担当グループ一覧表

グループ名	教員コード	教員名
歯科理工学	3000069	赤司 幸勇
	3000070	飯島 清人
	3000071	大木 裕玄
	3000072	小嶋 太巳
	3000073	小滝 友一
	3000074	榊原 茂弘
	3000075	笹尾 道昭
	3000076	三野 元崇
	3000077	竹井 満久
	3000078	中川 吉章
	3000079	中島 義雄
	3000080	中村 均志
	3000081	平田 修二
	3000082	松平 修一
	3000083	宮崎 紀代美
	3000084	宮永 光一
	3000085	八木原 建司
	3000086	由井 眞司
	3000088	岩崎 優希子
	3000089	岩崎 英理子
	3000593	小堀 雅教
	3000622	塩田 陽二
	752	掛谷 昌宏
	1071	深瀬 康公
	1263	小泉 寛恭
	1582	米山 隆之
	保存修復学	703
1173		陸田 明智
1179		黒川 弘康
1332		高見澤 俊樹
1539		坪田 圭司
3098		小森谷 康司
3439		柴崎 翔
3000171		青木 文良
3000172		青島 裕
3000173		天野 晋
3000174	新井 智	
3000175	五十嵐 薫	
3000176	市石 芳博	

